



【特集】 東日本大震災 —千葉県からの報告—



今までの訓練では、夜間休日の災害を想定し、避難所に駆けつける事になつて、いましたが、今回の平日日中職員が避難所に近辺に住む

た防災無線装置設置されています。そこでアントナの方角を示すために、ラジオアンテナが切斷される危険があります。また、船橋市内には市役所（灾害対策本部）と市内50箇所の避難所及び市内5箇所の地区本部（消防署）にデジタルMCA無線を利用した通信網が設置されていますが、避難所の無線機器の操作に関する問題がございました。

ノーマル二ノ無線の活用

の災害で派遣された市の職員及び学校職員ばかり混乱した模様です。

今年の3月11日に発生した東日本大震災では、直接被害を受けた地方は勿論、多くの市民がいわゆる「マイフライ」が寸断され、安な生活を過ぎざれた事で記憶に新しいところです。政府の災害対策本部を中心として、各自治体に災害対策本部が設置されました。その傘下に避難所が出来ました。が、末端の避難所と、災害対策本部との間で、交通手段はじめ通信手段も破綻したケースが多く報告されています。

ここでは、通信を完全に話を進める。公衆通信回線と呼ばれる、官公邸や携帯電話、大災害が発生した場合、官邸やラジオ放送局などと報道などを優先し、通信の規制を行います。

今回の灾害では規制以前の問題として、通信回線が寸断され多くの地域で通信が出来なくなりました。一方、千葉県内の行政機関には衛星回線を利用し

# アマチュア無線による災害ボランティア (JAGANE)

説田 克志 (JAZANE)

被災地と東京などとの通信を行ったもので十。

#### 千葉県のアマチュア無線

千葉県にはJARLの千葉県支部があり、その傘下に地域職域などのアマチュア無線クラブ組織が参加しています。千葉県支部では、毎年非常通信訓練や県主催の徒步帰宅訓練のバックアップを行ってきました。

非常通信訓練は千葉県及び広域市町村圏(東葛・印旛・香取・山武など10地区(平成22年からは8地区)に設置された無線局と、県内及び県外の個人または団体の無線局が通信の確認・交信をするものです。徒步練習歩きグルーブの前後に配置されたハンディートランシーバを持つアマチュア無線活動局が、県庁に設置された同基地局に進行状況を報告するもので、中継地点や最終集合場所に開設される赤十字や自衛隊のメンバーと、飲み物や炊き出しの準備などの調整などにも協力してきました。

船橋市アマチュア無線非常通信連絡会  
FARC(福井県船橋市アマチュア無線クラブ)(福井県船橋市内近隣のアマチュア無線局がメンバーになっている親睦団体があり、毎週土曜日の午後10時から1時間弱、同日曜日の午前10時から1時間弱オーエア・ミーティングと呼ぶ電波でのミーティングを行い、無線機器の状態を確認、会員の親交を深めています。また、船橋市には船橋市アマチュア無線非常通信連絡会(福井県船橋市アマチュア・レディオ・エマージェンシー・ネットワーク)FAREnet(福井県船橋市内近隣のアマチュア無線クラブ)という組織を作っています。船橋市が非常通信協力局長の委嘱をし「船橋市アマチュア無線非常通信連絡会」(福井県船橋市アマチュア・レディオ・エマージェンシー・ネットワーク)FAREnet(福井県船橋市内近隣のアマチュア無線クラブ)に検討を始め、同1976年に活動を開始。1977年に正式に発足した会で、幸いこの間に船橋市に災害対策本部(以降災対本部)が設置される事無く、今回の地震も船橋市では震度5弱、震度5強以上で災対本部を設置、訓練だけであった事は幸いです。

【特集】 東日本大震災 千葉県からの報告一



防災フェアにて市長と共に

船橋市アマチュア無線非常通信連絡会会長  
(船橋市アマチュア無線非常通信連絡会会長)